

6月11日開催

▼常任委員会での質疑の主な内容は次のとおりです。

◎総務課所管

Q 災害避難所備品購入に係る予算が、繰越になった理由は。

A 国への申請時期が遅く、繰越を前提とした3月補正予算での計上となったため。

Q 小中学校に配備されるタブレットの台数について、児童・生徒数が変動した際の対応は。

A 予備分も含め配備する。

Q 消防団活動災害保険の増額について、現在保険が掛かっている状況なのか。

A 活動災害保険は、前年度火災に出勤した消防車両に適用されるもので、前年度火災件数が多かったことから増額する。

Q 消防団員確保のための募集活動をしているか。

A 各班単位や幹部会での声掛け、各事業所へ

の訪問を行い、団員確保に努めている。

Q 消防団協力隊の体制状況は。

A 18行政区中9行政区で登録がある。消防団と同じ環境を整えていくことを検討し、組織化できればと考えている。

◎税務課所管

Q 村税の納付方法が増えたことにより、手数料はどのくらい支払っているのか。

A 令和7年度が約81万円（令和6年度は約58万円）。

Q 今年度より固定資産税の納期が6期から4期に変更になったため、支払いが大変だと言っているが、6期に戻すことはできないのか。

A 国のシステム標準化により4期に変更された。分納の対応もあるため、税務課に相談してほしい。

◎住民課所管

Q 条例改正概要で、子ども子育て支援金の18

歳未満分を18歳以上が負担との説明であったが、以前の説明では、努力支援交付金から補填すると聞いていた。

A 医療費分、後期分、介護分は交付金で減免している。

◎教育課所管

Q デジタル教科書の使用について、現在の方針は紙との併用で進めているとのことだが、2030年には改めて方針を示すことになるかと聞いている。村の考えは。

A 現段階では未定。国や県の指針、専門家の意見、現場の意見を参考に検討していく。

Q 小学校統合について、令和13年度の開校を目指すとのことだが、物価高騰や社会情勢の不安定さを考慮し、計画を遅らせたり、どちらかの小学校に寄せたりといったことの考えはないか。

A 学校等統合委員会で様々な協議を経て、本計画の指針となる提言

がされた。早く統合を進めてほしいという保護者の多数意見も踏まえた計画である。また、学級数の変移などから経済的に統合を進められるよう考えている。

Q 中学校体育館の空調は、いつから使用できるのか。

A 今年7月の最終週には取り付けが終わる見込みであり、その時点で試験運転としての稼働が可能となる。引き渡しは8月下旬頃の予定である。

Q 小中一貫校整備の中で、給食センターや児童クラブを含めて考えているとのことだが、グラウンドの規模等の不足はないか。

A 確実なものとは示せないが、施設を増設したとしても200mトラックを2つは確保できると想定している。ただし、保護者駐車場やスクールバスのロータリーなどの整備を含め検討したいと考えている。

Q 小中一貫校構想の図

面は出せないか。

A 令和7年度に実施したのは検討調査業務であり、詳しい図面を出せるような段階ではない。

Q 村野球場管理棟の整理状況が悪い。特に村外利用者の使い方が悪いように感じる。また、雨漏りや亀裂が入っており、修繕が必要である。

A 管理棟の状況は把握しており、整理を始めた。村外利用者については、制限をしていく予定である。雨漏り箇所などは早急に対応したい。



天井の雨漏り箇所

Q 村テニスコートを主に利用している中学校との、利用にあたっての取り決めはあるのか。

また、テニスコート周辺の雑草がひどく、村外の利用者に対し良い印象ではない。

A 中学校との取り決めは特になく。周辺の整備はシルバー人材への定期的な依頼や、公民館職員で草刈り等の対応をしている。

◎健康福祉課所管

Q 今回初めてWEBでの健診申し込みを行ったが、申し込み状況は。

A 想定通りであった。同居の家族分も申し込みが可能なので、周知し利用率を上げていきたい。

◎産業建設課所管

Q 本村に出没した熊の大きさは。

A 約1mの成獣と思われる。

Q 熊の駆除は、すぐに対応できる体制になっているのか。

A 緊急銃猟は村長の指示で実施できるが、住宅地などに熊が留まっている場合に限られる。頻繁に出没するよう



逆水論田線 小平沼田地内

あれば、県の許可を得て捕獲対策を強化していきたい。

Q 逆水論田線について2年近く工事が行われていない。社会資本整備総合交付金が付かなければ工事を行わないのか。

A 今年度の社会資本整備総合交付金の内示率が24%と低く、逆水論田線の工事実施は困難。今後は過疎対策事業債など交付税措置のある有利な起債を活用しながら整備を検討したい。

Q 国の補助金だけに頼らず、財政調整基金も活用して事業を進めるべきではないか。

A 財政調整基金の活用は、担当課と協議し検討していきたい。

Q ライスセンター整備の進捗状況は。

A 検討委員会より、令和9年度に事業計画、10年度に設計、11年度に工事着手、12年度の供用開始を図られた旨の答申があった。なお、国補助や農業活性化基金の活用も検討している。

Q 多面的機能支払交付金事業で、高齢化により運営が難しくなっている地域がある。役場職員がいる地区は事務を担っているが、いない地区は活動継続が困難で、消滅した地区も出ている。行政として事務支援や新たな仕組みづくりを考えているか。

A 過去に広域化も検討したが、賃金単価や運営方法の違いから各組織単位での運営を継続している。

Q 事務だけでも一本化できれば負担軽減につながる可能性があり、他自治体の事例も参考に見直しを検討したい。多面的機能支払交付

金事業の制度や様式が毎年変わることで、外注工事において、見積書

を複数業者から取得しなければならぬことなど手続きが煩雑すぎる。制度を簡素化すれば、組織単位で運営できるのではないか。

A 村独自で決められない部分が多い。ただし、県に対して様式変更の抑制や制度改善を要望していきたい。

Q 暗きよ排水事業の現在の実績は。

A 現在の実績は0件である。

Q 現在の制度は区画拡大が前提で、排水不良の田だけ暗きよ排水したい農家には使いにくい制度である。

A 現在は区画拡大とセツトの補助事業しかないで、今後は地域に合った制度を模索したい。

Q 公営住宅で外階段に屋根がない箇所があり、対応を提言していたが進捗状況は。

A 建物の構造上、強風時の安全性などに課題

があり検討中。

◎企画商工課所管

Q 山鶏滝の橋梁とは台風19号の被害にあったものと同一か。

A 同じ橋である。台風19号により欄干部分が欠落したため欄干のみ修繕した。その後、湿気により木造部分の腐食が進行していることがわかった。現状のまま放置することは、景観的にも安全面からも好ましくなく、より長寿命となるよう構造の見直しも含め修繕を実施する。



山鶏滝の橋の現状

Q 芝桜まつり期間中の無料送迎バスの利用状況は。

A 芝桜まつり期間中の土日祝日に運行し、約

10名以上、多い日は20名以上の利用があった。

◎道の駅整備推進室

Q 施設は必要最小限にすべきであるが、基本計画のまま基本設計を委託するのか。また、事業費について、村の実質負担額上限をいくりに設定しているのか。

A 基本計画で示しているものは決定ではない。皆様からの意見は、今後の基本設計の中で検討していく。

事業費の村負担額は、最大8億円としたい。

Q 中東情勢が混迷している中で工事が膨らみ事業中止になれば、設計委託料の7千4百万円が無駄になってしまふ。

A 建物の機能をそぎ落とし、全体事業費の上限40億円の中で整備していく。

Q 40億円を超えないように機能をそぎ落としていたら、魅力ある道の駅はできないのではないか。また、道の駅だけでなく、商店街

にも相乗効果を生む取組が必要である。ただ、商店街は事業承継ができず減少傾向にある。

A 事業費を超えた場合には、まず大屋根等の建築資材を見直し、その後に機能規模縮小などの見直しを行う。商店街の事業承継が進んでいないことは承知している。村と商工会は共存共栄すべきであり、道の駅への参入も進めていきたい。

Q 盛土の土量はどのくらいか。

A 7万6千m³である。

Q 山を削るには3km³以上は県の承認が必要になると思うが。

A 現在は購入土で検討しているため、山を削ることも、他の現場から持ってくることも想定していない。

Q 道路新設・改良などのインフラ分を含めると、既に40億円になっている。

A インフラ整備分は別で考えている。道の駅の整備として上限40億円である。